

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

会社名	アックスプレーン株式会社
住所	大阪市西区立売堀3-4-24
担当部門	営業部
電話番号	06-6534-1136
FAX番号	06-6534-5359
緊急連絡先	営業部

整理番号

作成・改訂 2021年11月10日

製品名(商品名, 化学名) なめらか一番 420ml

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性・引火性エアゾール	区分1
健康に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1 循環器系
		区分3 麻酔作用
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1 中枢神経系

環境に対する有害性

—

※上記で記載がない危険有害性情報は、区分外又は分類外もしくは分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険性有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール
 高圧容器:熱すると破裂のおそれ
 循環器系の障害
 眠気又はめまいのおそれ
 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

化学名	ポリジメチルシロキサン	プロパンとブタンの混合物
成分及び含有量(重量%)	10%	90%
化学式又は構造式	[ポリジメチルシロキサン] $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}(\text{Si}(\text{CH}_3)_2)_n\text{Si}(\text{CH}_3)_3$	[プロパン] C_3H_8 [ブタン] C_4H_{10}
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	[ポリジメチルシロキサン] (7)-476	[プロパン] (2)-3 [ブタン] (2)-4
CAS番号	[ポリジメチルシロキサン] 63148-62-9	[プロパン] 74-98-6 [ブタン] 75-28-5 (イ) 106-97-8 (ノルマル)

4. 応急措置

* 以下のいかなる場合においても、応急処置を速やかに行い、必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合:	直ちに清浄な水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 できるだけ速やかに眼科医の手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	付着物を布にて素早く拭き取る。衣類が汚染された場合は直ちに脱ぐこと。 速やかに多量の水と石鹸(又は皮膚用の洗剤)で十分に洗い落とす。 また溶剤が全身にかかった場合は、流水またはシャワー等で十分に洗い流す。 ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣類は脱がせず、そのまま多量の水又は温水で洗い流す。 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断・手当てを受けること。

吸入した場合	蒸気、ガスを大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。 呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。直ちに医師の手当てを受ける。 蒸気、ガスを吸い込で気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の診断・手当てを受けること。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、水で口をよくすすぎ、安静にして直ちに医師の手当てを受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

消火剤	泡(耐アルコール性)、粉末、二酸化炭素。 散水又は噴霧水は大規模火災の際にのみ利用する。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	内溶液と蒸気及びガスは高度に引火性である。熱、炎と接触した場合激しい火災の危険がある。 蒸気及びガスの場合は着火源まで相当な距離があっても引火する恐れがある。 火災現場にエアゾール容器があると激しく破裂する恐れがある。 火災や燃焼により、毒性、刺激性、腐食性のガスが発生する恐れがある。
消火方法	作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。 危険でなければ可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 火災現場にエアゾール容器があると激しく破裂する恐れがあるため、消火活動には距離を十分にとり、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
消火者の保護	消火者は必ず適切な保護具を(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、防毒マスク等を装備する。

6. 漏出時の措置

人体への注意事項	作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護衣、前掛け等)を着用する。 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行い、容器の漏出部は上向きにし、ガスを完全に噴出させてから処置をすること。 付近の火気を止めること。 付近の着火源、高温体及び可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させる。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 蒸気、ガスの吸入及び皮膚や眼への接触を避ける。 屋内で漏出した場合は十分に換気を行うこと。
環境への注意事項 回収・中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 衝撃、静電気にて火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。 漏出液を密閉式の容器に集め、残留分を土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させて安全な場所に移す。 残りをウエスや雑巾等でよく拭き取ること。 少量の場合は砂、おがくず、ウエス等を用いて吸収し、密閉できる空容器に回収する。 大量の場合は盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
二次災害の防止策	すべての着火源を速やかに取り除く。近くでの喫煙、火花、火気の禁止。 漏出液を排水溝や下水溝等に流してはならない。 廃棄物は関係法規に従い処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	静電気対策のため、設置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。 適切な保護具を着けて作業すること。 屋外又は換気の良い場所でのみ取扱うこと。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を設置しなければならない。 火気、スパーク、高温物付近では使用しないこと。火気厳禁。 火炎に向かって噴射しないこと。火の中に入れないこと。 温度が40℃以上となる所では、容器が破裂する恐れがあるため、取扱わないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手洗い等を十分に行う。
保管	乳幼児の手の届かない所に置くこと。 直射日光を避け、風通しの良い所に保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管すること。 温度が40℃以上になる所には置かないこと。 缶の錆による破裂を防ぐため、水回りや湿気の多い場所には保管しないこと。 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策

取扱い設備は防爆型を使用する。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

排気装置をつけて、蒸気が滞留しないようにする。

設備対策

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

曝露限界値

成分名	管理濃度	許容濃度		
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
ポリジメチルシロキサン	—	—	—	—
プロパン	未設定	未設定	未設定	—
イソブタン	未設定	500ppm	1000ppm	—
ノルマルブタン	未設定	500ppm	1000ppm	—

日本産業衛生学会：2018年度版，ACGIH：2016年度版

保護具

呼吸器の保護具

有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器。

手の保護具

保護手袋（耐溶剤性）。

目の保護具

保護眼鏡、保護面。

皮膚・身体の保護具

帯電防止の保護衣、前掛け（耐溶剤性）、通電性の靴等。

9. 物理的及び化学的性質

	原液	噴射剤
外観	無色透明液体	常温では無色の気体
融点	データなし	−187.7℃～−138.4℃
沸点	データなし	−42.1℃～−0.5℃
引火点	300℃（開放式）	−104.4℃～−73.8℃
発火点	約400℃	405℃～550℃
爆発範囲	データなし	1.8～9.5vol%
比重（at20℃）	0.97	0.55

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の取扱い条件においては安定である。

40℃以上になると破裂の恐れがある。常用温度で缶内圧は約0.4MPa。

危険有害反応可能性

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

高温、スパーク、裸火の暴露、混触危険物質との接触。

高温多湿な場所での保管及び火気付近での使用。

混触危険物質

強酸化剤。

危険有害分解生成物

燃焼により、有毒なガス（一酸化炭素、二酸化炭素等）を発生する。

その他の有害性情報

蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性

（経口）

ラット LD50 >5g/kg（ポリジメチルシロキサン）

（吸入）

すべての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、「区分外」とした。（LPG）

皮膚腐食性・刺激性

すべての成分が「区分外」もしくは「分類できない」なので、「分類できない」とした。（LPG）

刺激性なし：ウサギ（ポリジメチルシロキサン）

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

混合物として「分類できない」とした。（LPG）

刺激性なし：ウサギ（ポリジメチルシロキサン）

呼吸器感作性又は皮膚感作性

混合物として「分類外」とした。（LPG）

生殖細胞変異原性

混合物として「分類外」とした。（LPG）

陰性：微生物（ポリジメチルシロキサン）

発がん性

混合物として「分類外」とした。（LPG）

生殖毒性

混合物として「分類外」とした。（LPG）

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）

イソブタンを含むため混合物として区分1（循環器系の障害）とした。

混合物として区分3（眠気又はめまいのおそれ）とした。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）

ノルマルブタンを含むため混合物として区分1（長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害）とした。

誤えん有害性

液化石油ガスは対象外。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	混合物として「区分外」とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	混合物として「区分外」とした。

13. 廃棄上の注意

廃棄をする場合 残余廃棄物	中身を使い切ってから、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜く。 ガスを完全に抜いた後の内容液は、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託し 処理すること。
汚染容器・包装	各自治体の法令に従い廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	UN 1950
国連分類	CLASS 2. 1
国内規制	
陸上規制情報	消防法のほか法令の輸送についての規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特定の安全対策	取扱い及び保管上の注意事項に従うこと。 容器からの漏れのないことを確かめ、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。 運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法	危険物・引火性の物・可燃性ガス 名称等を表示・通知すべき危険物及び有害物	政令番号 482号 ボタン
PRTR法	非該当	
消防法	指定可燃物(可燃性液体類)	
船舶安全法	エアゾール(容量1L未満)高圧ガス	
航空法	エアゾール(引火性のもの)高圧ガス	

16. その他の情報

前回作成又は改訂日	2014年12月22日, 2017年01月16日
参考文献	原材料メーカーSDS 液化石油ガスSDS 労働安全衛生法対象物質データ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構
記載内容の取扱い	本安全データシート(SDS)は現時点で入手できる資料、データに基づき作成しておりますが、すべての 情報を網羅しているわけではありません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更 が生じることがあります。なお、このSDSは一般的な取扱いを対象としたものです。取扱う際は、ここに記 載されている内容を参考にし、十分に注意して取扱って下さい。 以上は情報提供であって、保証するものではありません。

***** 最終頁 *****